

# MINAMISATSUMA KAGOSHIMA

「南さつま海道八景」は、南さつま市内国道226号沿線から眺望できる雄大な自然景観や文化遺産など、南さつま市の代表的な八つの景観です。



谷山から見る  
段々畑 #24<sup>00</sup>

谷山からは、先人たちの知恵によって作り出された段々畑を見ることができます。

江戸時代の後半、近隣の町や村から移住した人々が、耕地面積の少ない土地の開墾を進めようと山の斜面を切り開きました。振り出された土石が積み上げられ、こうした作業が長い年月に渡って繰り返された結果、谷山の斜面は城壁を彷彿させる段々畑へと変化してきました。

笠沙半島では、黒瀬集落や姥集落、高崎山集落、大当集落などでも段々畑の景観を見ることができ、「石」文化を伝える風景や旧跡が数多く点在しています。



後浜から見る  
野間岬一帯 #28<sup>00</sup>

後浜からは、野間岬に沈むスケールの大きい夕日を見ることができます。

また、目の前にそびえ立つ巨大な立神や、左手遠方にうっすらと望む沖秋目島と阿房の立神(鶴瀬)など、全く趣の違う景観が眺望できます。

後浜は、かつて離れ小島であった野間半島が、長い年月をかけて砂が堆積し、トンボロ(陸繫砂州)を形成、陸続となった野間池の南側海岸に位置しています。

昭和26年秋、各地で猛威をふるったルース台風の来襲時には、立神を飲み込むほどの大津波に野間池のまちは襲われ、17名の尊い人命が奪われました。



落水から見る  
亀ヶ丘岩壁 #44<sup>00</sup>

落水からは、亀の形に切り立った崖である亀ヶ丘岩壁を見ることができます。

亀ヶ丘は標高387m、山頂が亀の形に見える山で、その頂には展望所・休憩所・トイレ・遊歩道が整備され、牧場ははなだらかなスロープが広がり、放牧された牛がのんびり草をむ様子を見ることができます。頂からは、雄大な東シナ海や起伏に富んだリアス式海岸、広大な大浦干拓や日本三大砂丘の吹上浜、快晴の日には開聞岳まで一望できます。

南さつま海道八景の中では珍しい「山」の景観となっています。



丸木崎展望所から見る  
泊浦一帯 #55<sup>00</sup>

丸木崎展望所からは、史と景のまち「坊津」を代表する泊浦をはじめ、屋久が立つ番場山や丸木浜の景観を見ることができます。沖合には、潮と呼ばれる島もあり、松島や蒲鉾瀬、双子瀬、山島、人形瀬など、美しいリアス式海岸の自然美が広がっています。

水平線の彼方に沈む夕日の光景は神秘的で、しばし見られるほど美しいです。



輝津館から見る  
双剣石周辺 #59<sup>00</sup>

輝津館からは、天に向かって剣のようにそびえ立つ双剣石を見ることができます。穂やかな波間に對峙するようにそそり立ち、それぞれ高さは27メートルと21メートル。坊津入口の網代浜近くに位置しています。

また、双剣石一帯は、その景観に加え、歴史・文化的な背景が評価され、国の名勝「坊津」として指定されています。

浮世絵で有名な歌川(安藤)広重が画題に用いるなど、江戸時代から著名な地で、周辺の網代浦で行われる漁の様子は、遠方から見物客が訪れるなど、漁業観光のはじりであったと言われています。

谷山から見る  
段々畑 #24<sup>00</sup>

後浜から見る  
野間岬一帯 #28<sup>00</sup>

落水から見る  
亀ヶ丘岩壁 #44<sup>00</sup>

丸木崎展望所から見る  
泊浦一帯 #55<sup>00</sup>

輝津館から見る  
双剣石周辺 #59<sup>00</sup>

